

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	23095
課題名	放射性同位元素内用療法における放射線量の有効半減期に影響を与える因子に関する検討
研究期間	実施許可日 ～ 2027年 10月 1日
研究の対象	2019年4月～2023年8月までの間に放射性同位元素治療室にて治療をした方
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：年齢、性別、診断名、画像情報及び測定値、血液検査結果、治療内容、既往歴） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 利用予定日（開始日 2023年 11月 1日）
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	<p>放射性同位元素内用療法は放射線遮蔽を施した専用の病室で治療を行っています。投与した放射線量や、元々の腎機能から、法律で定められた退室基準となるまでの期間（治療室から出られるまでの時間）はある程度推定することができます。しかし、予測通りに経過しないこともしばしば経験するので、その他の要因も関与していると予想されます。今後、治療用の放射性核種の増加が見込まれており、数少ない治療用病床が逼迫することが予測されます。そこで、より正確な放射線量の推移を予測可能となる患者さんの情報を検討することが本研究の目的になります。放射線量の有効半減期は、腎機能や、治療の標的である腫瘍の量等の影響を受けると考えられています。しかし、実際は治療を開始すると、必ずしも治療開始前の腎機能や画像検査での状況と一致しません。そのため、治療薬投与後の放射線の測定値から算出される有効半減期（実測値）は、投与前の予測より大幅に短縮ないし延長することもあります。この状況では、治療予定期間はマージンをとって長めの期間で組まざるを得ません。しかし、結果として治療が想定より早く終わり、病床が予想外に空いていることもあります。この研究で有効半減期に影響を与える因子が明らかになることにより、治療開始前に治療室から退出可能となるタイミングの推定が容易となる可能性があります。本研究結果により、限られた治療用病床を効率よく運用することが可能となり、より多くの患者さんに治療機会を提供できるようになることが期待できます。</p>
研究の方法	放射線の測定値から計算された有効半減期、腎機能や血液の濃さ等を含めた血液検査結果、画像診断から算出した測定値を用いて、統計学的に解析を行って、どの項目が関連しているのかを検討します。
その他	特にありません。

お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>研究責任者 旭川医科大学 放射線医学講座 野村 健太 電話番号：0166 - 68 - 2572 E-mail: kenta-rpg7vsd@asahikawa-med. ac. jp</p>